



がんばれ!



子育て日記

“子どもとの時間”が
なかなかとれなくても…

「子どもは“3歳”になるまで母親の手元で育てるのが一番」という“3歳児神話”を聞いたことはありませんか？この神話は、“子どもがしっかり発達するためには、3歳まで保育園などには預けず、母親の手元で育てなければならない”といった内容のことです。

しかし、現代は共働きのご夫婦も多いので、なかなか3歳まで母親の手元で育てるとするのは難しいことなのかもしれません。

実はこの神話は、アメリカの霊長類研究で有名なハロウさんが、1970年代に行った「アカゲザルを使った実験」の結果から安易に引き出されてしまったもので、当時多くの母親がこの神話に振り回されたそうです。

また、「この説はまやかしである」と今まで多くの研究家も言っていましたが、この神話をきちんと否定する研究は今までありませんでした。

しかし、このたび厚生労働省の研究チームが全国の夜間保育園の園児約3000人を5年にわたり追跡調査をして、統計学的にこの説を正式に否定したそうです。

厚生労働省研究チームの出した結果を結論からいうと、家庭の保育は「量よりも質」なのだそうです。

例えば、長時間保育園に預けられ親から離れている時間が長くても、子どもの発達にはほとんど影響がなかったそうです。それよりも「家族との食事」や「親が育児の相談をする相手がいるかどうか」などの要因が、発達を左右するといった結果になったそうです。

この結果から、家族で食事をする機会がめったにない子供は、食事をしている子供よりも“他人の話しかけに答えるなどの「対人技術の発達」が遅れてしまうリスクが70倍、理解度が遅れるリスクは44倍高かったそうです。”



たとえ両親が子どもから長時間離れていたとしても、しっかり子どもと向き合って家族で食事を楽しんだり、絵本を読むなどして対話をすれば、子どもはきちんと成長していくということを厚生労働省はしっかりと立証してくれました。